

道 妙 禅 門 御 書

建治二年八月一〇日 五五歳

御親父^{きとう}祈禱の事承り候間仏前にて祈念申すべく候。祈禱に於ては^{けん き けんのう}顕祈^{けん き みょうおう}顕応・^{けん き みょうおう}顕祈^{けん き みょうおう}冥応
・^{みょう き みょうおう}冥祈^{みょう き けんのう}冥応の祈禱有りと雖も、只肝要は、此の経の信心を致し給ひ候は
ゞ、現当の所願満足有るべく候。法華第三に云はく「魔及び魔民有りと雖も皆仏法を護
る」と。第七に云はく「病即消滅して不老不死ならん」との金言之を疑ふべからず。妙
一尼御前当山^{さんけい}参詣有り難く候。卷物一卷之^{まい}を進らせ候。披見^{ひけん}有るべく候。南無妙法蓮華
経。

八月十日

日 蓮 花 押

道 妙 禅 門